WITH MATERIALS

vol.01
SPRING
2022

創刊特集

人と社会と地球のために

MITSUBISHI MATERIALS communication magazine

CONTENTS

03 CONCEPT
創刊によせて

04 SPECIAL FEATURE
人と社会と地球のために

12 COMMUNITY
MMのある街を訪ねて

14 PEOPLE
MY STORY
イノベーションセンター 佐野 陽祐

16 TECHNOLOGY
社会をつくる素材の力
自動車

18 PRODUCT
ソザイのヒミツ
金属ゴム

19 TOPICS

20 SUSTAINABILITY
森とマテリアル
三菱マテリアルが「森」を守る理由

COVER STORY

『WITH MATERIALS』創刊号の表紙を飾るのは、私たちが暮らす星「地球」。これは、三菱マテリアルの企業理念である「人と社会と地球のために」をイメージしています。そして、記念すべき創刊号のテーマも「人と社会と地球のために」。事業を通して社会の持続的な発展に貢献する、三菱マテリアルの姿をお届けします。

「WITH MATERIALS」創刊によせて

ともにある、三菱マテリアル

三菱マテリアルは、企業理念である「人と社会と地球のために」のもと、
社会的価値と経済的価値の両立を図り、
「豊かな社会」「循環型社会」「脱炭素社会」の構築に貢献することを目指しています。

未来の予測が難しい時代に、
今、世の中から求められていること、
10年後、30年後の未来に求められていることをしっかりと見据えて、
我々に何ができるのかを自問自答しながら
新たな素材・技術・事業を創造するため挑戦を続けています。

その姿を、社内外のステークホルダーの皆さまにぜひ知っていただきたく、
このたび、企業広報誌『WITH MATERIALS』を創刊いたしました。

人と社会と地球のために
皆さまとともに歩んでいきたいという想いを誌名に込め、当社の取り組み、
そして従業員の姿を季刊にてお伝えしてまいります。
ぜひご一読いただければ幸いです。

三菱マテリアル株式会社
執行役社長
小野 直樹

1957年生まれ。1979年三菱鉱業セメントに鉱山技師として入社。2014年三菱マテリアル常務・セメント事業カンパニープレジデント。副社長・経営戦略本部長などを経て、2018年社長就任。

WE ARE
MITSUBISHI
MATERIALS

創刊特集

人と社会と地球のために

三菱マテリアルグループは、「人と社会と地球のために」を企業理念として、
銅を中心とした非鉄金属素材や、付加価値の高い機能を持つ材料などを供給してきました。

そして、自然の恵みである資源や素材を大切に利用するとともに、
それらを再生・再利用することで、持続可能な社会への貢献も果たしています。

近年の環境意識の高まりによって、より一層注目を浴びる「サステナビリティ」。
このような社会全体で取り組むべき課題に対して、三菱マテリアルグループは
どのように向き合い、どのような取り組みを進めているのか。

本誌の特集では、事業を通して持続可能な社会の構築を目指す
私たちの取り組みや、その姿を見た社外有識者からのメッセージをお伝えします。

限りある資源を
未来へつなぐ

三菱マテリアルが目指す循環型社会

三菱マテリアルグループは、人々の豊かな暮らしのために、ものづくりを行っています。
そして、限りある資源をいかに大切に使うかを常に考え、循環型社会を実現するためにリサイクルにも力を入れています。

つくる

CREATE

回収する

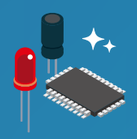
COLLECT

付加価値の高い素材・製品の提供に向けて

銅を中心とした非鉄金属素材や、長年培ってきた技術力を活かした付加価値の高い機能を持つ材料・製品を提供しています。これらはPC、スマートフォン、自動車、航空機、医療機器など、私たちの暮らしに欠かせないものに使用されています。

銅製品

超硬工具



電子材料

三菱マテリアルの素材・製品

海外から輸入する銅精鉱やE-Scrap（家電やパソコン、スマートフォン、ネットワーク機器の廃基板）などから金・銀・銅などの素材を製錬（製造）するほか、製錬で生み出した素材で作られる高品質・高性能な銅製品や、半導体・エレクトロニクス分野で使用される電子材料、自動車や航空機のエンジンなどの加工で使用される超硬工具の製造などの事業を展開しています。

再び資源にする

TRANSFORM

回収した廃棄物をリサイクルし、資源として再び活用することで、循環型社会の実現に貢献しています。

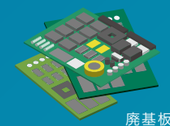
資源を循環させるために

大量生産・大量消費・大量廃棄による資源の枯渇、環境汚染は世界的な課題です。三菱マテリアルでは、地球の限られた資源を大切にし、未来につなげるために幅広い分野でリサイクルを行っています。

超硬工具

家電・スマートフォン

自動車



廃基板

三菱マテリアルが取り組むリサイクル

金属を中心に培ってきた高度なリサイクル技術と幅広い事業経験を活かし、E-Scrapをはじめ、テレビ・冷蔵庫などの家電や自動車のリサイクル、さらには超硬工具に利用されるタングステンなどのリサイクルも行っています。

三菱マテリアルが挑む
～私たちの未来を守るために～

当社が取り組む課題は「持続的な開発目標（SDGs）」の達成にも貢献するものであり、
これにより社会的価値と経済的価値の両立による企業価値向上を実現していきます。

1 人々の豊かな暮らしを支える

銅を中心とした非鉄金属素材や付加価値の高い機能を持つ材料・製品は、さまざまな場面で人々の暮らしに役立っています。当社グループはこれらを世の中に安定して供給することで、人々の豊かな暮らしを支えていきます。

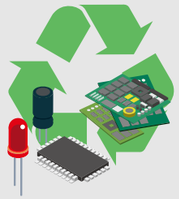
PickUp!

直島製錬所貴金属課

松崎 隆洋

銅を製錬した後に発生するスライムから、金、銀といった貴金属を取り出す製錬工程を管理しています。貴金属を取り出す工程では、不純物を取り除く上で解明されていない課題もありますが、製品の安定供給のためには品質確保が不可欠ですので、操業の小さな変化も見逃さないことを常に心掛けています。また現在は、スライムから貴金属をより効率的に回収するために、新たな取り組みを行っています。未来につながるこの取り組みを、着実に進めていきます。

2 持続可能な未来をつくる



限られた資源を大切に利用することは、持続可能な社会を構築する上で必要不可欠です。当社グループでは、処理技術の開発やリサイクル量・率の向上に努めるとともに、リサイクル可能な製品の供給、さらにはリサイクル対象の開拓、広範囲なネットワークの構築を進めていきます。

PickUp!

DX推進部DX推進室

鈴木 裕樹

E-Scrapの取引における顧客向けサービスの向上を目指し、E-Scrapプラットフォーム「MEX※」を構築しました。「MEX」を通じて、E-Scrapビジネスの取引情報の可視化、顧客の業務効率化を実現し、この取り組みをグローバルに浸透させていくことで、世界のリサイクル率の向上に寄与していきます。今後もお客様の声に耳を傾け、さらなるサービス強化を目指します。

3 環境負荷軽減に貢献する

再生可能エネルギー事業を拡大し、環境負荷の少ないエネルギーを安定供給することで脱炭素社会の構築に貢献していきます。また、各工場での省エネルギー活動を推進し、環境負荷低減を考慮したものづくりを徹底していきます。

PickUp!

湯沢地熱株式会社

沼倉 達矢

山葵沢（わさびざわ）地熱発電所の安定操業・発電効率の向上を目指し、日々業務を行っています。地熱発電は地下のマグマの熱エネルギーを利用して発電する、CO_2排出量が少ない発電方法の一つです。世界で脱炭素社会の構築が求められているなか、地熱発電所の操業を通じて貢献できていることに喜びを感じています。

4 自然との共生を目指す

当社グループでは、自然環境の保全のために資源の有効活用とその再資源化に取り組んでいます。また国内に保有する休廃止鉱山の適切な維持・管理を行っています。加えて、広大な社有林の整備、環境に配慮した技術・製品の開発を積極的に推進しています。

PickUp!

イノベーションセンター（小名浜支所）

今崎 那奈子

使用済みのリチウムイオンバッテリー（LiB）からコバルト、ニッケルなどの有価金属を分離精製する技術の開発に携わっています。LiBには希少な金属や有害物質が含まれているため、適正処理をせずに廃棄すると、資源の枯渇や環境汚染につながります。他企業と共同で無害化と分離精製を両立できるグリーンプロセスを開発することで、資源循環型社会の実現と環境汚染防止に寄与します。

※「MEX」は、Mitsubishi Materials E-Scrap EXchangeの略
2021年12月より三菱マテリアルが開始した、E-Scrapビジネスにおける新しいプラットフォーム。E-Scrap取引に必要な全ての情報が、24時間いつでも確認できる。

TALK ABOUT THE FUTURE OF ESG

社外PERSON INTERVIEW

持続可能な社会を構築するために

三菱マテリアルの現在地と目指すべき方向性とは？

株式会社ニューラル 代表取締役CEO
夫馬（ふま） 賢治（けんじ）さん

持続可能な社会を実現するためには、三菱マテリアルはどこに注力するべきでしょうか。そして、三菱マテリアルの事業・取り組みにはどのような可能性があるのでしょうか。サステナビリティ経営、ESG投資の専門家である、夫馬賢治さんにお話を伺いました。

夫馬 賢治さん Profile

サステナビリティ経営・ESG投資アドバイザリー会社を2013年に創業し現職。東証一部上場企業や大手金融機関をクライアントに持つ。スタートアップ企業やベンチャーキャピタルの顧問も多数務める。国連責任投資原則（PRI）署名機関。世界銀行や国連大学などでESG投資、サステナビリティ経営、気候変動金融リスクに関する講演や、CNN、フィナンシャル・タイムズ、週刊エコノミスト、ワシントン・ポスト、NHK、日本テレビ、テレビ東京、TBSラジオ、日本経済新聞、毎日新聞、フォーブスなどメディアからの取材も多数。ニュースサイト「Sustainable Japan」編集長。

ESG：環境（E: Environment）、社会（S: Social）、ガバナンス（G: Governance）の英語の頭文字を合わせた言葉。企業が長期的に成長するためには、経営においてESGの3つの観点が必要だという考え方が世界中で広まっている。

企業の持続的成長を左右する「ESG」とは？

――近年、企業活動において「ESG」という言葉を耳にする機会が増えました。改めてESGとはどのようなものなのでしょうか？なぜ今、注目を浴びているのでしょうか？

ESGという言葉が出てきたのは、2006年からです。私が2010年から12年まで米国に留学していた時点で、ESG投資が力強い動きを見せ、企業の成長に欠かせないものになっていることを目の当たりにしていました。しかし、日本でESGが広まってきたのはここ数年です。

夫馬さんの著書からおすすめ！

「これを読めばESGがわかる！」一冊

『ESG思考　激変資本主義1990－2020、経営者も投資家もここまで変わった』（講談社＋α新書）

ESGを理解するための導入としてぜひ読んでいただきたい1冊です。幅広い方から「これを読んでESGに対する意識が変わった」という声をたくさんいただきます。他にも今話題のカーボンニュートラルについて記した『超入門カーボンニュートラル』（講談社＋α新書）などもおすすめです！

金融市場の遅れが原因となり、2017年に国内最大の機関投資家であるGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が「ESG指数」に基づいた株式投資を開始したことで、ようやく世間にも認知されるようになってきました。

ESGは企業が持続的な成長を遂げるために非常に重要な要素です。この視点を経営に取り入れていかなければ、企業は顧客をはじめとするステークホルダーからの支持を失い、事業継続への影響も考えられます。代表的なものとして挙げられるのは石炭火力発電分野です。石炭は以前から温室効果ガスの排出量などの問題から警鐘を鳴らされていたため、今後はますます事業環境は厳しくなるでしょう。同じ理由で、自動車業界も大きな転換期を迎えています。モノづくりの世界は、第5次産業革命と言われているほど、主に環境・社会面で大きく変化を遂げている最中であり、事業の方向性に頭を悩ませている企業はたくさんあります。

激動の時代に輝く三菱マテリアルの可能性

――そのような環境下で、三菱マテリアルの事業はどう映っていますか？

皆さんがメインで取り扱っている銅をはじめとした非鉄金属やレアメタルは、電気自動車などの普及に伴い、追い風が吹く分野だと予想されています。ただし、油断は禁物です。なぜならば、同じ銅関連企業同士での競争が激化するからです。ここで重要なのは、銅を取り巻く環境を理解すること。銅がどこでどのように採掘され、どうやって販売されていくのか。環境影響、社会影響、コスト、安定調達の全ての面で効率的なサプライチェーンの構築を意識しなければ、競争が激化する銅事業を生き抜くことはできません。

そこで三菱マテリアルに期待するのは、都市鉱山（E-Scrap）からの銅の回収です。銅は今後、需要の伸びに対して供給が追いつかなくなるとも言われており、いかに効率良く回収して、再生できるかということが重要視されます。新しい時代に向けて、銅の回収技術の競争は横一線です。これを制することができれば世界のリーディングカンパニーになることも夢ではありません。

しかし、ただ単に銅をリサイクルすればいいわけではありません。資源の回収や分解、リサイクルなど通常よりコストがかかる再生銅を、ヴァージンカッパーと同じコスト・品質で提供することを大前提として、プラスアルファでどのような付加価値をつけられるのかが、三菱マテリアルが持続的に成長する上で重要になってきます。新しい技術や回収・分別モデルを見出していくことはもちろん、少量の銅で今までと同じ品質の製品を作ったり、よりリサイクルがしやすいシンプルな構造にしたりするなど、消費効率・回収効率を上げるための技術も必要になってくるでしょう。その点では、三菱マテリアルが運用するE-Scrapビジネスの新たなプラットフォーム「MEX」は面白い取り組みだと思います。

このような新しい視点は、今後の製品開発に欠かせないものになっていきます。米国ではすでに、同軸ケーブルから銅を回収する最先端の技術を企業が開発し、事業を開始しています。このように、今まで再生ができなかった、もしくは難しい、コストが莫大にかかると言われている素材にこそ、リサイクルにチャレンジする価値があるのかもしれません。皆さんがそれを実現できたら、とてつもなく大きな武器になります。その際には、三菱マテリアルが長年培ってきた、幅広いリサイクル技術が優位に働くことでしょう。

「人と社会と地球のために」を全てのサプライヤーに向けて

――最後に、社員の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

私から社員の皆さんに伝えたいのは、より視野を広げて物事を捉えてほしいということです。三菱マテリアルには「人と社会と地球のために」という企業理念があります。この言葉を聞くと、ついつい自分自身が社会にどのように貢献しているか、ということだけを考えてしまいがちです。しかし、皆さんがどれだけ正しい行動をしていたとしても、製品を取り巻くサプライヤー自身の社会・環境インパクトを改善できていなかったら自分の仕事に誇りは持てないですよね。自社だけではなく、サプライヤーがどこまで動いているのかしっかりと把握して、一緒に改善していくことが求められています。皆さんにはぜひ、自分たちだけではなく、全てのバリューチェーンを含めて理念が体現できているかということを意識して業務に従事してほしいです。皆さんの取り組みに未来がかかっています。これからの三菱マテリアルの活躍にぜひ、期待したいと思います。

MMのある街を訪ねて

日本中を旅する女性、あるこさんが
三菱マテリアルグループの拠点が
ある街を訪ねます。

ナビゲーター
あるこさん
まち歩きと工場見学が
趣味の女性：20代後半。

筑波製作所編

今回は、三菱マテリアルの加工事業を支える筑波製作所がある街をご紹介

西の富士、東の筑波と称される名山、筑波山が一望できる自然あふれる山々に位置する筑波製作所。
1992年、当時製作所があった東京都から茨城県常総市に全面移転し、2022年4月に操業30周年を迎えました。

ここで作っているもの

インサート

自動車や飛行機の部品など、金属材料を加工する際に使用される超硬工具の切れ刃の部分

筑波山

筑波のシンボル
日本百名山のひとつ！

過去にはレクリエーションや研修を筑波山で行うなど、筑波製作所の従業員にとってもゆかりのある土地です。

石下だんご

どっちを食べるか
迷っちゃいますね！
ここはどちらも
。。。!?

春子屋

ゆたかや

こしあんをたくさん使った名物だんご
地元の名店「春子屋」と「ゆたかや」は要チェック！

案内してくれた人
業務部 工程管理課長
新保谷 淳さん

1986年入社。インサート製造における進捗管理や改善活動に携わっている。東京製作所からの移転に伴い筑波製作所に異動。地元のイチ推しグルメは「ステーキ食堂 肉の番人」。

研究学園都市

国内最大の
サイエンスシティ！

国の試験機関や研究機関が計画的に移転・新設された背景があり、JAXAや国土地理院など世界に誇る科学技術拠点として発展しています。

いよいよ
筑波製作所に潜入！

従業員数約850名（派遣社員含む）、敷地面積13,600㎡と三菱マテリアルの製造拠点のなかでも最大規模を誇る筑波製作所。ここでは世界最高水準を誇る技術で、インサートをはじめとした超硬素材や工具形状の研究・開発を行っています。

長い製造ライン

最大の特徴は、第二東棟にある原料から製品までの工程を一本化した「一貫製造ライン」。これにより省人化、効率の良い生産を実現しています！

福利施設は
三菱マテリアルでは
トップクラス！

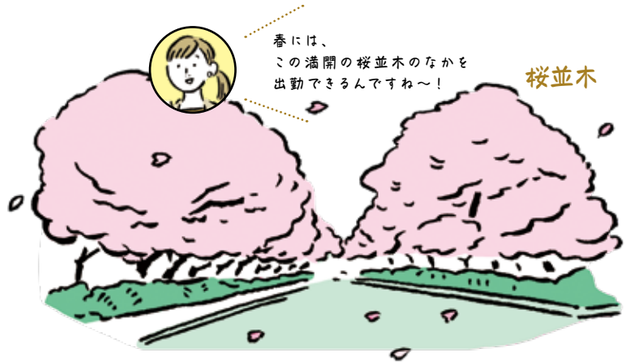
診療所・グラウンドなどの福利施設

製作所の敷地内には診療所、グラウンド、テニスコートなど福利施設が充実。診療所では内科だけではなく歯科の診療も受け付けています。従業員が安心して、快適に働ける環境が整っています！

超硬工具の
先端に装着！

インサート

三菱マテリアルが製造するインサートは国内シェアトップ！ お客様のニーズに合わせ高品質で魅力的な製品をお届けしています。



春には、
この満開の桜並木のなかを
出勤できるんですね〜！

桜並木

案内してくれた人
事務部 総務課
大隅 摩希子さん

2020年に入社して筑波製作所に配属。事務部員として製作所の総務や法務、広報活動など、幅広い業務に携わっている。

MY STORY

三菱マテリアルの多様な人材と、その挑戦

「水素社会の実現のため私の挑戦は続く」

イノベーションセンター
佐野 陽祐さん

世界で加速する脱炭素化の取り組み

今、世界中で加速している脱炭素社会の実現に向けた取り組み。国内でも、政府が2050年までにCO_2の排出量を実質ゼロにするという宣言があり、非常に注目度が高まっています。そのなかでも、水素をエネルギーとする水素社会の実現に向けた動きが広がっており、三菱マテリアルではその一翼を担うために、水素利用に関する研究開発にも力を入れています。

水素社会を実現するためには、大量の水素を効率良く製造しなければなりません。なかでも水を電気分解して水素をつくる「水電解」という製造方法が注目されています。私は、その水電解装置には欠かせない電極の開発に携わっています。当社の得意分野である粉末冶金法やめっき技術を用いて、特徴的な多孔質構造※を持つ電極を開発し、水電解技術の進化に取り組んでいます。

新しい分野への挑戦だからこそやりがいがある

研究開発力が優れている企業を選定していたなかで、事業が幅広く、かつ専門性の高い三菱マテリアルに惹かれて2016年に入社しました。その頃はちょうど脱炭素化に向けた水電解技術が重要であると明らかになりつつあり、入社当時の私は大学などから最先端の情報を収集しつつ、水電解技術の研究開発をスタートさせました。

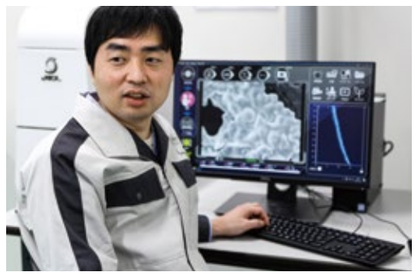
三菱マテリアルは近年、積極的に新分野に挑戦しています。水電解技術の開発はまさに当社にとって新しい挑戦。脱炭素化に向けて水電解技術の重要性がますます高まってきているなかで、他社が真似できないような技術やユニークな製品を開発し、それを求められているタイミングで提供する。これが私に与えられた命題であり、金属材料の取り扱いに長けている当社にしかできないことだと思っています。

しかし、水素社会の実現となると一社だけでできるものではありません。私たち素材メーカーが抱える技術的な問題はもちろん、水素社会に適したインフラの整備や社会的受容性の問題など、乗り越えなければいけない課題は山積みです。そのため一技術者としてただ研究開発を行えばいいというわけではなく、自分が開発した製品が、社会にどのように貢献できるのかという目線、つまり出口戦略を練ることが非常に重要になります。当社内に閉じこもらず、社外の大学や他企業との協力体制を築きながら、当社の強みを活かした開発を進めています。大変なこともありますが、社内にとどまらない仕事ができること、そして自分の研究成果が社外に認められることが仕事をする上でのやりがいになっています。

脱炭素社会の構築に貢献するリーディングカンパニーを目指して

そんな私の挑戦を支えてくれているのが、三菱マテリアルの幅広い事業領域と、創業から150年以上にわたり培ってきた技術、そして企業風土です。当社は社会情勢に合わせた新しい分野にチャレンジさせてくれる雰囲気があり、例えば、業務以外のことにチャレンジできる「10%カルチャー」など、新しい技術を生み出すサポート体制があります。また若手の頃から主要なプロジェクトに主体的に関われることも大きな魅力です。こうした環境で、私自身も臆せず、いろいろな分野に挑戦することができています。

三菱マテリアルには金属材料を中心に脈々と受け継がれてきた技術や知見があります。それらを新しい分野に応用し、CO_2の排出量を減らす新しい技術を生み出すことが私の役割です。脱炭素社会に貢献するリーディングカンパニーを目指し、水素社会の実現に貢献できる製品の開発に全力を注いでいきます。



三菱マテリアルが培ってきた金属製造技術を活かして、多孔質構造をはじめとしたあらゆる形状の金属材種を開発している

※多孔質構造　ユニークな表面構造・組成を有する、高気孔率（80%以上）な金属多孔質体

社会をつくる素材の力

自動車

自動車の基幹部品に欠かせない「伸銅品」

移動・運送手段として私たちの生活を支える自動車。そこには、当社が製造する「伸銅品」が活躍しています。銅や銅合金を加工して作られる伸銅品は、電気や熱の優れた伝導性を持つことから、自動車の血管や神経に相当するワイヤーハーネスの端子や、電気系統・制御回路をまとめるジャンクションボックスの部品など、あらゆる箇所に使用されています。

当社が車載向け製品に注力し始めたのはおよそ30年前。国内車両メーカーが続々と次世代自動車の開発を進めるなか、旧三菱伸銅社（現・三菱マテリアル）は、次世代自動車の特性に適合した銅合金に注目。歴史ある金属材料技術を武器に幅広い製品展開を続け、現在では自動車向け伸銅製品で国内シェアNo.1の地位を確立しています。

電気自動車の普及に伴い、「エンジン」から「モーター」「ガソリン」から「電気」へと、エネルギーの伝送手段が変わることで銅合金の需要はますます高まっていきます。求められる特性が変わるなかで、当社にしか製造できない品質を追い求め、国内外のお客様へ伸銅品を安定的に提供し続けます。

PICK UP

高性能固溶強化型銅合金
「MSPシリーズ
（Cu-Mg系銅合金）」

お客様の用途に合わせて、銅に添加するマグネシウムの量が異なる３種類をラインアップ。自動車などの電装化に貢献している。

ソザイのヒミツ

三菱マテリアルが開発した
新素材の「ヒミツ」に迫ります！

SOZAI FILE NO.1

「金属ゴム™」

ってどんなソザイ？

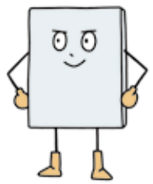
金属が持つ熱に強いという強みを活かしながら、表面がゴムのようにやわらかい不思議な素材です。金属とゴム、それぞれの長所を合わせることで、今までの素材では両立が難しかった、熱に強く、やわらかい素材が誕生しました！

ソザイに詳しい
Dr. マテリ
三菱マテリアルのラボで
日々研究に動しむ、
素材フリークな博士。

金属なのにゴムみたい！？

金属の特徴

熱に強く、汚れがつきにくい一方、ゴムなどの有機材料に比べるとやわらかさやくっつきやすさでは劣っています。



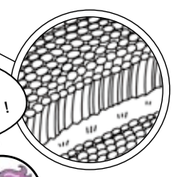
そこで…

金属とゴムの
いいとこどり、
それが
「金属ゴム™」

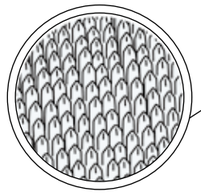
ヒントはヤモリから！

生物の生態を模倣する技術「バイオミメティクス」を活用！

ヤモリが垂直な壁をすばやく登る能力のメカニズムに注目！
ヤモリの足裏に生えている**60万本と言われる微細な剛毛**からヒントを得て、
金属の表面に細かな形状をつけています。



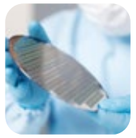
ここの構造が
ポイントなんじゃ！



表面に施した微細な形状が凸凹に合わせて
かみ合うことで、高い接着性を再現しています。

金属にバイオミメティクス
を応用することは
三菱マテリアルの
高い技術力があってこそ
できることなんじゃよ。

こんなところで使用されます



半導体・航空・宇宙
高温や真空など、樹脂では耐えられない、劣化しやすい環境でも長く使用できる素材として期待されています。

医療
汚れがつきにくいことから、人体に影響が少ない素材として、医療現場での利用が期待されています。

TOPICS

2022年1〜3月における、三菱マテリアルの主要トピックスをお伝えします。

DX認定

経済産業省が定める「DX認定事業者」に認定

2022年1月1日（土）、三菱マテリアルは経済産業省が定める「DX認定事業者」の認定を取得しました。DX（デジタルトランスフォーメーション）認定制度は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき、経済産業省が定める「デジタルガバナンス・コード」の基本的事項に対応し、DX推進の準備が整っている事業者を国が認定する制度です。 今後も、DXにより「ビジネス付加価値向上」「オペレーション競争力向上」「経営スピード向上」を推し進め、高付加価値な製品・サービスを提供するリーディングカンパニーを具現化していきます。

NEDOの「グリーンイノベーション基金事業／次世代型太陽電池の開発」に参画

三菱マテリアルは、MMCイノベーション投資事業有限責任組合を通じて出資している株式会社エネコートテクノロジーズの委託先として、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「グリーンイノベーション基金事業／次世代型太陽電池の開発」に参画します。一般的な太陽電池に比べて軽量で多様な場所に設置可能なペロブスカイト太陽電池の普及のため、低コスト化・高性能化に向けた周辺材料の開発を行います。

テレビ東京「News モーニングサテライト」に登場

2022年3月7日（月）、テレビ東京の経済報道番組「News モーニングサテライト」において三菱マテリアルが取り上げられました。マーケットで起こっている「リアル」な事柄を、番組キャスターがレポートする「Marketリアル」のコーナーで当社事業や社長インタビュー、若松製作所などが紹介されました。
URL：https://www.tv-tokyo.co.jp/mv/nms/special/post_247434/
この他、当日放送されなかった社長インタビュー特別版が「Newsモーニングサテライト」専用の有料配信サービス「モーサテプレミアム」で配信されています。
URL：https://txbiz.tv-tokyo.co.jp/nmspremium/market/post_247625
※動画の視聴には会員登録が必要です。

2022 健康経営優良法人 Health and productivity

経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人」に認定

2022年3月9日（水）、三菱マテリアルは経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人」の認定を取得しました。健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。今後も、従業員の健康レベルのさらなる向上を図るべく、体系的に取り組んでいきます。

北海道大学・九州大学による「資源系教育コンソーシアム」への支援

三菱マテリアルは、北海道大学大学院工学院と九州大学大学院工学府が、資源系人材育成のための教育システムを強化・充実させることを目的として、民間企業および公的機関と連携して設立した「資源系教育コンソーシアム」への寄附を行います。本コンソーシアムへの寄附を通じ、今後の持続可能な社会の構築に不可欠となる資源系人材の育成をサポートするとともに、さらなる産官学の連携強化に寄与していきます。

三菱マテリアルグループ一体でインナーブランディングを強化

三菱マテリアルでは、従業員と組織のエンゲージメント維持・向上のために、「経営層とのコミュニケーション」「従業員一人ひとり、グループ全体がヨコでつながる」「一人ひとりのチャレンジを応援」という3つの方向性を軸に、さまざまな取り組みを行っています。直近では2022年3月、グループ従業員が他の職場の仕事を体験できる「半日職場体験」をスタートさせました。他部門・グループ会社を「知る」「つながる」コミュニケーションを推進することで、自由闊達なコミュニケーションが行える組織風土の醸成を目指していきます。

**『WITH MATERIALS』
読者アンケートにご協力ください**

今号の『WITH MATERIALS』に対する皆さまの率直なご意見・ご感想、取り上げてほしいトピックスをお寄せください。

森とマテリアル

三菱マテリアルが「森」を守る理由

当社の社有林「マテリアルの森」は、明治初期の吉岡鉱山の買収による操業開始以来、銅製錬の燃料や坑道の支柱などに使用する木材の生産を目的として、周辺の山林を所有してきたことにルーツがあります。長い間受け継いできたこの森をさまざまな機能を発揮する「美しい森」として次の世代に受け継いでいくこと、これが私たちが森を守る一番の理由です。

気候変動への対応が求められるなか、木材の生産にとどまらずCO_2の吸収・固定や、土壌や水の保全、さらには生物多様性の保全やレクリエーションの場の提供など、さまざまな機能を発揮する森が必要となっています。

このようなさまざまな役割を担う森を守っていくために、木材の収穫と植林などの保育を繰り返す森林資源の循環を着実に実施していきます。また、その場所に自然に生える樹木、草花や土壌などの天然の力を活かすことや生物多様性への配慮を大事にし、環境負荷が低く、自然災害にも強い森づくりをこれからも進めていきます。

WITH MATERIALS 01
SPRING 2022
発行日：2022年 4月7日　編集・発行：三菱マテリアル株式会社 経営戦略部 コーポレートコミュニケーション室
〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル
TEL：03-5252-5206 URL：www.mmc.co.jp/corporate/ja/